

登録コード	UAB07600	開講年度	2026				
授業題目	日本語文化AR I			担当教員	速水 香織		
				副担当	鈴木 裕也		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。			⇔	文献資料や論文を正確かつ批判的に読み解き、文学・言語に関する事象や背景にある問題に対し、先行研究の知見や手法を正確かつ批判的に読み解き、それを現代社会の課題や自身の研究課題の分析・解決に活用し実践できる。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。			⇔	文学・言語に関わる学問領域を中心に学習し、複眼的で多文化主義的な視点や横断的で高度な専門知識を身につけ、人間・社会・文化に関わる研究課題を批判的・総合的に分析し、課題解決のあり方を検討できる。		
(2)授業の概要	翻訳され、海外に発信された古典作品と原典との比較を通して効果的な情報発信の方法をリサーチする。またフィールドワークとして、海外への日本文化発信の拠点である国文学研究資料館訪問を実施する。演習などを通して、16世紀頃のヨーロッパの宣教師による日本語研究書や翻訳書であるキリシタン資料を中心に講読する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス・外国語としての日本語、外国文学としての日本文学 速水、鈴木 第2回：外国資料（主にキリシタン資料）の概説 鈴木 第3回：平家物語の諸本 鈴木 第4回：天草版平家物語（実習） 鈴木 第5回：天草版伊曾保物語（実習） 鈴木 第6回：古活字版伊曾保物語との比較（実習） 鈴木 第7回：外国人による日本語研究、対訳辞書の編纂 鈴木 第8回：外国資料の講読（実習） 鈴木 第9回：Bary訳『Five Women Who Loved Love』と原典・『好色五人女』速水 第10回：『好色五人女』の描写の特性と再翻訳の試み（実習）速水 第11回：『好色五人女』の古典利用と表現方法 速水 第12回：『好色五人女』の『源氏物語』受容（実習）速水 第13回：情報収集の方法―文献の搜索・巨大データベースの活用（実習）速水 第14回：フィールドワーク・長野県内の文化財・古典籍を見学 速水 第15回：ディスカッション・見学を終えて―日本語の文化的蓄積とその発信について（共同）速水、鈴木 定期試験は実施しない。						
(4)成績評価の方法	目標への到達度をはかるため、各授業においてコメントシートの提出を課す（40点）。また、授業における作業への取り組み（40点）、フィールドワークに関するレポート（20点）によって評価する。得点による評価基準は次のとおり；合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。						
(5)成績評価の基準	テキスト精読や補足的準備を中心とした事前および事後学習を基に授業での報告や討議への積極的・能動的な参加が求められる。以上に加え、レポート課題に対し適切に問題設定を行い、授業で学んだ専門的概念や視点をを用いて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例を挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念と具体例を統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、具体例を挙げつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
(6)事前事後学習の内容	各回において扱うテキストの事前読み込みは必須とする。また、実習に際しては、事前に十分な準備を整えること。 各回において学修した内容を定着させ、得た知識を実際に運用できるよう復習することを事後学習とする（知識の定着度を測るため、実習後の授業において小テストを実施する）。						
(7)履修上の注意	1)受講予定の学生は、学期が始まる前に本授業のeALPSページを確認すること。 2)授業内で取り上げる話題は、テーマを考える上ではごく一部の内容に留まるものなので、事前事後学習を含めた受講者の積極的な学びの姿勢を求める。 3)出席は前提となるので、無断欠席や理由なき遅刻・早退は認めない。						
(8)質問、相談への対応	担当教員のオフィアワーやメールにおいて対応する。面談希望の際は事前に必ず連絡すること。 速水…金曜日昼休み（12:10-13:00） khayami@shinshu-u.ac.jp 鈴木…木曜日昼休み（12:10-13:00） yuyasuzuki@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	特に定めない。各回において、適宜資料を配布する。						
【参考書】	岸本恵実・白井純（編）『キリシタン語学入門』（八木書店、2022年） 新編日本古典文学全集『源氏物語』1～4、『井原西鶴集①』（小学館、2000年） 『Five Women Who Loved Love』（Tuttle Publishing版、1989年）						